

緑育会通信 第8号

2010年9月30日発行

緑育会事務局
(プロジェクト推進室)

Tel : 03(3961)0084

Fax : 03(3962)7135

E-mail :
ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

創立130周年を前に —発足4年、緑育会の営み点描—

青木 幸子 (東京家政大学 教員養成教育推進室長)



2006年10月22日、本学創立125周年を記念して発足した緑窓教育会(通称、緑育会)も早いもので4年が経過しようとしています。本学は、創立以来、教員養成の一翼を担い、多くの人材を社会に輩出してまいりました。この実績は高く評価され、本学の伝統として今日まで脈々と受け継がれて

きております。

4年前、卒業生の情報交換の場として、あるいは研修の場として、従来にも増して現職教員をサポートするとともに、現職教員と養成機関に学ぶ在学生との交流の活性化を願って緑育会は発足しました。この間、教育基本法を始め関連法規の改正や学習指導要領の改訂、教員免許更新講習の制度化など、重要な制度変更が相次ぎました。

このような制度変更に対応すべく、従来免許状の種類によって異なっていた養成組織を統一し、教職課程の質的水準の向上と教員養成の拡充を目指して、2009年4月に教員養成教育推進室が開設されました。

緑育会が当初の目的達成に向けて、その質を高めていくために、創立130周年を目前にした今、4年間の営みを省察したいと思います。それは、「緑育会通信創刊号」に、私自身が「今、緑育会は『発ち』上がりました。今後は現職教員・学生をバックアップするための『営み』をどのように紡いでいくか、緑育会の営みが教育活動に独自の息吹を吹き込むような組織づくりができたらと大きな夢を描いている昨今です。」と記したからに他なりません。

緑育会事務局からのお知らせ

緑育会では、卒業生の皆さまの入会をお待ちしています。

会員登録をされますと、会員のみの特典として、教員就職(求人)情報(非常勤教員の採用等)、緑育会会員がメールを使って、メンバー全員で気軽に意見を交換できるシステム(メーリングリスト)が利用できます。登録は緑窓教育会(緑育会)ホームページから手続きができます。なお、お知り合いの方で、緑育会をご存知ない方がいらっしゃいましたら、是非ともご紹介ください。

【目次】

創立130周年を前に —発足4年、緑育会の営み点描— 青木 幸子(東京家政大学 教育養成教育推進室長) ……	1
報告1 第2回教員免許更新講習の実施にあたって 教員免許更新講習実施委員長 菊入三樹夫教授 ……	2
教材情報 保育科講師 佐伯一弥 ……	3
アドバイスコーナー 環境教育学科教授 新開隆 ……	4
報告2 第18回(平成22年度)教員対象講習会 ……	5
報告3 平成21年度卒業生進路状況(教員・都道府県別) ……	5
教育時流 教員養成教育推進室室長 青木幸子教授 ……	6

一つは、現職教員に向けた情報交換の場としての評価です。発足以来、年2回「緑育会通信」が発行されています。皆様が必要とされる情報が届いておりますでしょうか。毎号の会報の中で恒常的に掲載されているのが、本学の取組状況(教員対象講習会、教員免許更新講習、共同教職大学院など)、教材情報、卒業生進路状況、教育時流などです。アドバイスコーナーや意見コーナーが設けられた号もあります。

二つは、現職教員の資質力量の向上に向けた研修の場としての評価です。日々の教育活動における悩みや課題解決に繋がる研修の場となっておりますでしょうか。先の教員対象講習会、教員免許更新講習のほかは、特別な研修の機会を設けることはできませんでした。会報紙面の情報活用や限られた講習会とは別途に研修の機会を設けていく必要があると考えております。

三つは、現職教員と在学生との交流の活性化に対する評価です。現在、元埼玉県立高等学校長を務められた森田松子先生が本学非常勤講師のほか就職相談員としてご活躍くださり、在学生の大きな力になってくださっております。現職教員と在学生との接点を増やしていくことも課題です。

緑育会の目的を達成するためには、この間の営みを公正に評価し、より満足度の高い緑育会をめざしていきたいと思えます。そのためには、会員と大学、会員相互のコミュニケーションの活性化が必要です。緑育会に未加入の方には会員登録をお勧めください。そして、会報の記事に対するご意見・ご感想をお寄せください。会員の皆様の参画を心よりお待ちしております。

報告1 第2回教員免許更新講習の実施にあたって

今年は大変暑い夏になりました。八月の半ばの十六日から、お盆明けの一週間にわたっての教員免許更新講習の実施は、何かと多忙な方々(夏期休暇の期間、貴重なまとまった時間が必要な教育研究を抱えておられるにもかかわらず、更新講習を受講する現役の先生方はもちろんのこと、この講習の講師を引き受けていただいた専門家各位、それに円滑な講習実施のために事務の立場から、環境整備の側からと目立たないところで汗を流して下さる方々)の一方ならぬご尽力の賜物と心より感謝する次第です。

この教員免許更新講習も二回目を実施することになりました。この原稿は、この更新講習がはや四日目を迎えている、八月十九日に執筆しております。各教科の最新の授業運営・教授法等の講習が今、別の教室において行われている所です。

いまだ二回目とも言えませんが、安部内閣のもとで教員免許更新講習の計画が打ち出されたときから関わったものとしては、早くもここまで来たかとの感慨は深いものがあります。この講習自体が公的免許制度の中でどのように位置づけられるべきなのか、例えば各教委によって公設される十年目講習など、他にも実施されている現職教員のための講習に対して、どのような意味を持つのかといった、あまりに「まっとう」とも言える疑問が、講習の実施主体となるであろう大学や、講習を受けることになる現役の先生方から数多くあげられておりました。

こういった状況の中で東京家政大学は、教員養成大学の社会的責務として、とくに地域の先生方の要請や本学を卒業して教壇に立っている方々のご希望も考慮して、早くより積極的に実施することにいたしました。そして今年の夏、第一回目を実施したわけでありました。それは試行錯誤の連続だったということができましよう。内心はヒヤヒヤしていたのですが、結果的に大過なく順調に第一回目の講習を終了することができほっと胸をなで下ろすことができたのは、関係各位の献身的なご協力があればこそこの講習の成功だったと、以前本誌に寄稿したことがございます。本当に感謝いたしました。

ただ感謝ばかりではなく、私どもは今後に備え受講者の皆様から、更新講習を受講したことや家政大学での講習に対するご忌憚のないご感想も文章でご記述していただきました。この受講者のご意見は大きな財産になりました。受講する先生方のナマのお考えがストレートにわかり、次回すなわち第二回目の今回の更新講習に生かすことができるからです。受講された先生方のご感想は大部にわたっています。講習全体に関わるもの、教科の講習に関わるもの、実施上の技術的な事柄まで多岐にわたっております。これらを分類・類別し、例えば教科講習に関わるご意見やご感想は担当の講師にすぐに渡して読んでもらい、次への改善に寄与してもらうなどの作業をして参りました。

そして今時の第二回目の講習の実施にあたって、受講予定の先生方からもこの講習に何を期待し、どんなことを講習してもらいたいのかといった極めて具体的なアンケートを実施いたしました。その結果は先の感想と同様に、講習科目別に分類して講師の先生方にお渡ししており、講師の

教員免許更新講習実施委員長 菊入 三樹夫教授
方々はこのご要望集をもとに講習内容をアレンジしてより受講者の関心にフィットした講習が実施される予定です。このような意味では第一回目の昨年の講習時よりは、いくらか安心しております。

さて、今年度の更新講習の概要と状況をご説明することにいたします。以前本誌上にも書きましたが、この教員免許更新講習を開講する大学などの機関・施設は多く、東京地区にあっては結果的に開講施設全体の受講対象者の総数をかなり上回ってしまいました。明らかな供給過剰です。つまり、開講する旨を公示し募集はしてみたものの受講者があまり集まらず、思うように講習ができなかった所がかなり出てしまったのです。それで二年目の今回、更新講習の開講を辞退する大学等の施設がかなりにのぼっています。

家政大は狭山校舎においても開講しておりますが、狭山校舎が立地する西武池袋線沿線において、家政大と競合するように更新講習を開講する施設は多くにのぼります。しかしながら昨年度、第一回の実績を埼玉教委が集計した一覧表を見てみますと、受講者が期待したほど集まらず、悪戦苦闘した所が数多くありました。そして本年度当初においても今年度第二回目の講習を実施するかどうか未定であるところも多くありました。

そんな中において、本学は第二回目の更新講習を実施する方針で準備を重ねて参りました。そのために前述したように受講者の感想文と二回目の受講者へのアンケートが不可欠だったわけです。その結果、今年度の更新講習は昨年度とは若干異なる形で開講することになりました。おもな特長をあげれば次のようになります。

前回の第一回目の講習は何事も初めてで、いわゆる手探りの状態ですべてが行われました。開講科目も家政大が提供できるすべての分野にわたりました。しかしいざ開講してみると、受講者の希望は「最新の教育事情」(いわゆる必修科目と呼ばれる科目群)に集中しました。家政大としては十分な自信を持ったユニークな科目も、現場の先生方のご希望とは若干ずれて、敬遠された科目もあり、事前に十全な準備をされた講師陣には肩すかしの感をもたれた方も多いのではと反省しております。

こういったわけで、現場の先生方のニーズと家政大が提供できる知的財産と具体的なノウハウを厳選して、講習の一科目一科目ずつが充実して楽しく有意義であるものに限定して開講することにいたしました。ですから板橋と狭山の会場では、参加される受講者の皆様のニーズやご希望に合わせ、開講科目も若干異なることになりました。

諸々の思いは講習の参加者をはじめ講師陣、陰で講習を支える多くの事務の方々、それぞれお持ちだと思います。そういった中での第二回目の更新講習です。ご多忙な先生方が時間と費用をかけて開講するこの更新講習です。受講された先生方が、充実した有意義な家政大の更新講習だったとの感想をお持ちいただくよう、いづれにせよ家政大更新講習関係者全員が気を引き締めてこの講習にあたって

おります。

教材情報

子どもの遊びの創造性を楽しむ活動例について

保育科講師 佐伯一弥

“自発的”な活動としての遊びは、乳幼児期にとって相応しい「学び」の在り方であり、その遊びを援助することで、生きる力の基礎（幼稚園教育要領）ないし、現在を最もよく生き望ましい未来をつくり出す力の基礎（保育所保育指針）としての「心情・意欲・態度」を育む営みが保育の本質であると理解するならば、予め準備・用意した遊びをただ提供したり、教えたりすることだけが保育ではなく、中学校・高校の授業においても子どもたちと共に作り上げていくような遊びの楽しさ一言い換えれば、子どもの遊びのもつ「創造性」にも触れてほしいと思うのです。

そこで、本稿ではこの「子どもの遊びの創造性」について、中学校・高校の授業の中でも体験できるような活動例を提示したいと思います。

【活動例1:手遊びの替え歌】	【活動例2:色付きシャボン玉】
<p>手遊びについては、多くの生徒さんが幼稚園・保育所に通っていた頃に経験したことがあるかと思いますが、なかでも有名な手遊び歌の一つが「グーチョキパーで なにつくろう」です。これは、もともとフランスの民謡である「フレール・ジャック（Frère Jacques）」をことば遊び研究者である齊藤二三子さんが歌詞を付け、手遊び歌にしたものであり、基本的には「グーチョキパーで グーチョキパーで なにつくろう なにつくろう」という歌の後に「右手は〇〇で 左手は〇〇で」と続き、その二つの手の形の組み合わせで様々な見立てをするというものです。</p>	<p>もう一つは、「色付きシャボン玉」です。とはいっても、科学遊びの中で出てくるようなシャボン玉自体に色を付けるような取り組みではなく、通常のシャボン液に水性絵の具を混ぜたもので、シャボン玉遊びをするというものです。すると、飛んでいる際は普通のシャボン玉と変わらないのですが、地面に白い紙を置き、そこでシャボン玉が割れると淡い色の円が描かれるのです。そこで、更に数色のシャボン液を用意し、同じように繰り返していくと、偶然性によって創られた幻想的な作品になるのです。</p>
<p>オーソドックスな例としては「右手はパーで 左手もパーで ちょうちょ」(写真①)や、同じく「右手はチョキで 左手もチョキで かにさん」(写真②)というシンプルなものから、「右手はグーで 左手はチョキで かたつむり」(写真③)などと、ちょっと難しいものなどが挙げられます。</p>	<p>そこで、かつて私自身も新入生と一緒に、入学直後の緊張感をほぐすべく、この色付きシャボン玉を使った活動を授業の中に取り入れてみました。そのときは、予め人数分の番号を付したハガキ大の白い画用紙を用意しておき、その番号が下になるように地面に並べました。(このときは屋外で行ったので、風で飛ばされないように、大きなビニールシートを敷き、その上に、このハガキ大の画用紙を両面テープで簡単に貼り付けました。)</p>
<p>さて、この手遊び歌の面白さは、自分たちなりの創造的なアイデア（発想）によって、オリジナルのものを考え出せるということです。実際に、保育の現場でも、例えば帰りの会などの際に、園児が前に出て、いわば先生役になりながら、自分が考えた見立てを披露するという場面を見たことがあります。その際にとっても印象的だったものが「右手はグーで 左手もグーで だんごむし」(写真④)というものでした。少なくとも、当時の私の発想の範囲にはなかったアイデアだったので、この場面に出くわしたときには、率直に感心してしまいました。</p>	<p>それから学生たちと共に、色付きシャボン玉を5分程度楽しむと、概ねほとんどの紙に美しい模様が描き出されました。その後、紙を乾かしがてら片付けて、教室に戻り、今度は先ほどの画用紙と同じ番号が付されたクジを用意しておき、それを引いてもらいました。そして、そのクジに記された番号の画用紙を学生たちに配り、ここで一つ“お題”を出すのです。すなわち、これから3分間与えるので、その間に配られた画用紙に描かれた模様を元に、思い浮かんだタイトルをつけなさい、と。</p>
<p>ともあれ、このような手遊びの替え歌を、例えば数人のグループになって、ある短時間で考えさせ、それを互いに発表し合いながら、素朴に楽しみ合うだけでも、先に述べた「遊びの創造性」に触れてもらえるのではないかと考えられるのです。</p>	<p>そして、3分後には一人ずつその画用紙を他の学生たちに見せながら、その思い浮かんだタイトルを発表してもらいながら、自己紹介するというものです。その際、進行役の教員としては、それらのタイトルについて（たとえ、恥ずかしさなどからおどけたタイトルをつけたものであっても）出来る限り面白がりながら肯定的なニュアンスのコメントを付けていくことで場が和み、受講生のもつ遊び心を振り返ることがより容易になりました。</p>



写真①



写真②



写真③



写真④

アドバイスコーナー

未来を生きる子どもとコミュニケーション

環境教育学科教授 新関隆

協調・共感する心とコミュニケーションを好む性質

現代を生きる私たちの中に、太古の狩猟採集生活を通して育み受け継がれてきた能力が息づいています。私たちの祖先は希少な食糧を得るために苦勞してきました。その苦難によって、植物の実りを皆で採集する能力、巨大な獲物を集団で追い詰め仕留める能力が高められてきたと考えられます。

ところで、最近、食べ物紹介のインターネット上の日記（ブログ）が流行っています。おいしい食べ物をカメラ付き携帯電話で写真に撮って携帯電話からブログに載せるのです。これは、どこにいくとおいしい食べ物が得られるかという情報を皆と共有しようとする行いです。この仕草は、仲間と実りの在り処を教え合い、一斉に実るちょうどそのとき、皆でその実りを採りに行く、という採集生活の知恵のなごりなのかもしれません。

また、今年はワールドカップサッカーで盛り上がりました。ゴールにボールを蹴りこむサッカーは、集団で協調して獲物を追い詰めて仕留めるという狩猟の感覚を目覚めさせるのかもしれませんが。熱狂的なサポーターを見ていると、当たらずとも遠からず、といった感です。

私たちは、一人ではできないことを他者と協調して達成することで喜びを感じます。また、皆でおいしい食事ができるとうれしく感じます。このように他者と協調・共感したときに感じる喜びは、太古の人々が希少な食糧を皆で協力して獲得し、分かち合って食べたときの気持ちと繋がっているのでしょうか。

このように私たちが他者と協調・共感して喜べるのもコミュニケーションがあるからです。では、私たちは何か目的があってコミュニケーションをしているのでしょうか、それとも、ただ好きだからなのでしょうか。ここでは後者で考えていきましょう。

コミュニケーションを好む性質と社会の変化

狩猟採集生活を通して、人類はコミュニケーションを好む性質を頼りに、他者と協調・共感する心を育み希少な食糧を協力して得てきました。また、コミュニケーションを好む性質を原動力として、歌を歌って言葉を生み、絵を描いて文字を作りだし、科学を学んで電気通信技術を開発してきました。これに伴って、原始社会から農業社会、工業社会、そして、情報化が進んだ現代社会へと進んできました。では未来はどうなるのでしょうか。

未来を明るくユビキタス社会として描きだす人もいます。ユビキタスとはいつでもどこでも誰とでも繋がる、という意味です。しかし、私は現代社会がその方向へと進んでいるとは思っていません。なぜなら、現代の変化を、私たちがコミュニケーションを好む気持ちを世界規模で巨大に膨らませていることの現れとして見ているからです。その膨らみに方向はなく、形はぶよぶよしている、といったイメージです。

子どもとインターネット、コミュニケーション

とは言うものの、未来を担うのは子どもたちです。その子どもたちのインターネット・携帯電話の使い方に不安を感じている先生も多いのではないのでしょうか。情報の大海であるインターネットの世界を漂っているうちに狭い世界観にはまってしまうこともあるでしょう。（タコがタコツボに入って安心しているのに似ていますね。）また、ひっきりなしにメールをし続けたり、友人からの返信メールが遅いだけで不安になってしまうこともあるでしょう。ユビキタスに近づいているというのに、変ですね。

かといって、私たちはコミュニケーションを好むたちなので、強力なコミュニケーションツールがあればそれを使いたくなります。使い方に注意しましょう、と言ってもなかなかそうもいきません。なんともはや、といったところでは。

話は変わりますが、多くの人々と関わり合う現代社会では、原始社会よりも高いコミュニケーション能力が必要とされるはずですが。しかし、私たちのコミュニケーション能力が高まっているというものでないようでは。ではどうやってそのギャップを埋めているのでしょうか。

それは、コミュニケーションツールの使いこなしによっています。私たちは社会が進むにつれ、より強力なコミュニケーションツールを求め、使いこなし、さらに多くの人々と関わり合う社会に進んでいく、という繰り返しのしているのです。

ではインターネット・携帯電話といった強力なコミュニケーションツールを幼いころから使い始めた子どもたちは、その使い方に長じることで、より多くの人々とよりよいコミュニケーションができるようになるのでしょうか。もちろんそうはいきません。先の論法には何かが必要ありません。

それには、コミュニケーションを好む気持ちの膨張と収縮、というものを考えます。私たちは、他者に分かってもらいたいと望んだり、分かってもらえないとしょげたりします。これがとても重要で、気持ちを膨らませたり縮めたりしながら周囲と折り合いをつけているのです。しかし、強く魅力的なコミュニケーションツールに出くわすと、気持ちを膨らませるばかりで気持ちを縮めにくくなることで、周囲と折り合いをつける調節機能が働きにくくなるのです。

まとめがありませんが、最後となりました。未来を生きる子どもたちには、一人ひとり、コミュニケーション能力を高めてもらいたいと願っています。子どもたちは人と分かり合いたいという気持ちを膨らませたり縮めたりしています。その気持ちをうまく捉えて、多くの他者と協調・共感する機会を増やすことが学校教育の中でも必要になってくるのではないのでしょうか。

報告 2

第18回（平成22年度）教員対象講習会

平成22年8月3日（火）から6日（金）まで、板橋キャンパスにおいて現職教員の方々を対象に「教育現場で活用できる内容」を中心に講習会を実施しました。

講座内容		講座内容	
育児支援の分野	すすむ少子化と子育ての過去、現在、未来	衣の分野	最近の洗濯機と洗剤の特徴を調べる
保育の分野	子どもを取り巻く環境と大人の役割	住生活の分野	子どもたちに伝えたい「まち暮らし」の魅力
教育の分野	中学校・高等学校での特別支援教育	高齢者福祉の分野	「自分らしく生きること」を支える高齢者福祉とは？
食・栄養の分野	食育の実践指導「味覚教室のススメ」		

報告 3

平成21年度卒業生進路状況（教員・都道府県別）

都道府県名	小学校		中学校		高等学校	
	教諭	講師*1	教諭	講師*1	教諭	講師*1
福島県		1				
茨城県		1	1	1		
長野県				3		
埼玉県	10	10		4		2
千葉県	3	1		2		1
東京都	11	3	3	1	1	2
神奈川県	2				2	
新潟県		1				
鹿児島県		1				
沖縄県		1				
計	26	19	4	11	3	5

*1 時間講師含む



越谷市立城ノ上小学校教員

2010年3月卒業生の就職決定状況は学科により異なりますが、大学84～100%、短大93～98%と厳しい就職環境のなか学生は粘り強く頑張り、例年と大差なく高い決定率でした。取得資格や学んだことを生かす職業についてた者が多いことも本学の特色です。

2008年に起こったリーマン・ショックの影響で業界を問わず多くの企業が業績を落とし、内閣府は「2009年3月が景気の底」と認定（2010年6月7日発表）したにもかかわらずその後の安定した景気回復は見られず雇用にはどの企業も慎重で、少数精鋭採用の厳しい状況でした。2010年3月卒採用では大幅な採用抑制、特に女子採用減の企業が見られ、本学学生も授業と並行して早期から長期にわたる就職活動を強いられました。夏までの2011年卒学生への求人数は半減、求人倍率も前年よりさらに低下し厳しい就職環境にたたされておられ、全学あがりの就職支援の必要性を強く感じています。

本学は過去も現在も入学志願の段階から専門職・公務員志向が高いのですが、企業就職が厳しいことからどの大学も資格・免許を生かした職業や公務員への希望が増加しており本学学生への影響を懸念しています。一人でも多くの学生に専門職、特に「教員採用試験」に合格してもらいたいと、進路支援センターでは校長経験者の進路アドバイザーの力をお借りし個々の希望に合わせ支援し続けています。

児童学科の保育士は2010年就職者の7割が公務員として採用されている高い実績ですが、児童教育専攻の公立小学校教員合格率も例年と遜色ない状況で、東京・埼玉・神奈川だけでなく福島・茨城・新潟・鹿児島・沖縄でも合格者がありました。栄養教諭や家庭科教員の合格者も東京・埼玉・神奈川を中心に徐々に増加し、特に環境情報学科では東京の理科教員が、造形表現学科では東京・埼玉・千葉・長野で美術科教員が、英語英文学科では埼玉・千葉・長野で英語科教員の合格者がありました。

「採用試験に合格しました！」との報告の声に、就職支援への大きな喜びを感じますが、今のうれしいことは「教員OGから教育現場や採用試験のお話を伺う会」への出席学生数が年々増加していることであり、多くの学生を緑育会につなげる努力をいたしたくご支援をお願いいたします。

教育時流

教員養成教育推進室長 青木幸子

現職教員の知識と技能をリニューアルすることを目的に制度化された教員免許更新講習、2回目となる今年度の講習が終了しました。猛暑の中、講習にご参加くださった先生方、大変お疲れ様でした。教職経験年数も抱える課題も異なる先生方が、講習内容をそれぞれの状況に応じてどのように斟酌し再構成されるのか、その意欲と力こそが講習の成果であり、スキルアップに繋がると思います。明日の教育活動に役立てていただけることを願っております。



このような講習会の一方で、今年度も教員に期待される資質を裏切るような行状も多く報道されています。あるいは公表されない事態も進行しています。その一つが指導力不足教員です。

文部科学省は、2007(平成19)年6月の教育公務員特例法の改正に基づく制度の適切な運用に向けて人事管理システムのガイドラインを明らかにしました。それによれば、典型的な指導力不足教員の例として、①教える内容に誤りが多かったり、児童の質問に正確に答えられなかったりする、②授業中、ほとんど板書するだけで児童の質問を受けつけない、③児童とコミュニケーションを取ろうとしない、の3例を挙げています。また、指導力不足の認定には精神科医などの専門家、保護者や本人からの意見聴取が必要とされること、指導研修は最長で2年間とし、その後学校現場への復帰や分限免職などの措置が決まることになっています。

2008(平成20)年度には全ての都道府県・指定都市教育委員会(64教育委員会)で不適切な教員の人事管理システムが整備され、運用されています。「文部科学白書」によれば、平成12年度の指導力不足教員は65名でしたが、平成16年度の566名をピークに平成19年度は371名を数えています。研修を終えて教育現場に復職した人の割合は、ピーク時の平成16年で33.7%、その後33.9%、30.1%、32.5%を刻み、退職した人の割合は、同じく26.8%、29.5%、34.3%、34.3%と推移しています。

大学で必要な単位を修得し、教員採用試験に合格し、晴れて教員になっても、卒業後に資質力量が発揮できずに悩む教員、その悩みや課題の原因がどこにあるのかを探り、原因を除去しつつ、課題解決のための養成と研修のあり方を構築していくことが大切です。

前回の「緑育会通信第7号」の私の呼びかけに現職教員からご意見が寄せられました。彼女の結論はこうです。「教師たるや体力と人間力の必要な仕事ですから、大学でそのことを良く認識してから、心して教員になることが大切だと思います」。また、教員免許更新講習に先立ち、先輩教員から母校の講習を案ずるお電話をいただきました。いずれも心して傾聴し、今後に繋がりたいと思います。教員のライフストーリーもさまざまですが、教員としての職能成長を図っていくことができるよう、本学の伝統と実績を損ねることのないよう取り組んでいきたいと思っています。

 緑育会通信第8号、緑育会に関するご質問・ご意見・ご感想・ご要望等をお待ちしております。
下記の緑育会事務局（プロジェクト推進室）までお寄せ下さい。 

緑窓教育会（緑育会）ホームページをご覧ください。

- ①東京家政大学のホームページを開きます。
(<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>)
- ②「卒業生の方」をクリックします。
- ③「緑窓教育会（緑育会）」をクリックします。

または、
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/>
と直接アドレスを入力します。

緑育会事務局（東京家政大学 プロジェクト推進室）

〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
TEL: 03(3961)0084 FAX: 03(3962)7135
E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp
ご質問ご意見ご感想をお寄せ下さい。